



CTL

Kansai University Center for Teaching and Learning
Newsletter

関西大学 教育開発支援センター
ニュースレター

June 2012

vol. 09

授業外の学習を支える 学習環境のデザインとは

教育推進部 岩崎千晶



いま、新しい能力が注目されている。PISA型能力(OECD2001)に代表される新しい能力は、高等教育分野では学士力(中央教育審議会2008)、社会人基礎力(経済産業省2006)、就職基礎能力(厚生労働省2004)などが挙げられ、このような新しい能力を培うことが現在の大学生に求められている。新しい能力では、PISA型に代表される3つの力を育成することの必要性が共通して述べられている。それは、自律的に学ぶこと、他者と協同して学ぶこと、道具を相互作用的に活用して学ぶことである。

このような力を育成するために、大学は何を提供すればよいのか。そのためにはいくつかの方法が考えられるが、そのひとつとしてアクティブ・ラーニングがある。アクティブ・ラーニングは、学習者同士の対話による協同的な学習や、学生自らの思考を促す能動的な学習を行い、学習者が他者と協同し自律的に学ぶことを指す。自律的な学習は授業内にとどまらず、授業外においても学習者が継続して学習することを重視している。そのため、授業外の学習環境をどう構築するべきなのはアクティブ・ラーニングを実施する上で非常に重要なファクターとなるのである。

このファクターとして注目されているのがラーニング・コモンズである。ラーニング・コモンズは、主に図

書館において学習者同士による協同的な学習、自律的な学習を支援する学習施設である。関西大学高槻ミューズキャンパスの中等部・高等部ライブラリーでは、すでにラーニング・コモンズを導入している。ライブラリーでは、ワイヤレスネットワークを構築しており、ノートPC40台、デスクトップPC15台、プリンター2台を備えている。ノートPCはバーコードが貼られており、図書貸出システムと連動して管理がされているため、利用状況も把握できる。この環境で学んだ高等部の3年生は、来年4月に関西大学へ初めて進学する。本学においても新しい能力の育成やアクティブ・ラーニングを推進するにあたり、授業外における学習者同士の協同、自律的な学習を支えるために、どのような学習環境を整備する必要があるのかを検討する時期にさしかかっているのではないだろうか。

しかし、授業外の学習を支えるための環境を作るといつても、場所の確保、図書館における座席数など、課題は多々ある。すべての課題を即座に解決することは難しいが、段階を踏み、身边にできるところから学生の授業外の学習を支える環境を生成していくことは、「関西大学が目指す考動力」つまり、「新しい能力」を身につけた学生を輩出する大学としての役目といえるのではないだろうか。